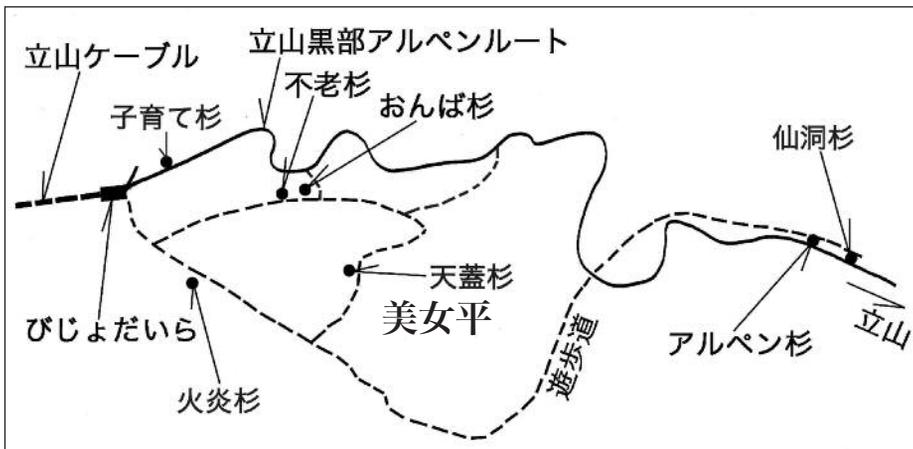


びじょだいら
b-6 美女平のタテヤマスギ



平成 15・16 年に富山森林管理署が美女平・溶岩台地のタテヤマスギを調査した。その結果、幹周 6m 以上のタテヤマスギ 147 本を確認した。天然杉が残されている日本最大の地域であることが判明した。遊歩道沿いやアルペンルート沿いに何本か見られるが、ほとんどは道の無い原生林の中にある。そのため、一般には見ることはできない。

タテヤマスギは、立山周辺で生育している天然杉で、積雪に順応して枝は垂れる。特徴的な性質は、伏条幹を多く出す事だ。スギの種子は軽く、落葉の積もった場所では発芽しない事が知られている。そのため平坦な美女平では、朽ちた古株の上に着生したタテヤマスギが発芽に成功する。発芽したタテヤマスギはすぐに多くの伏条幹を出す。日当たりが良ければ、枯れないで成長した伏条幹は、分岐幹となっていく。タテヤマスギの多くが分岐幹である所以だ。又、古株を伝って根が地面に到達すると、古株と地面の両方から養分を吸い上げ、タテヤマスギは急激に成長し、次第に古株を覆うようになる。この頃古株は完全に朽ち果て、大きな空洞として残る。その後、根が主幹のように成長し、巨木となって原生林の中に鎮座するのである。

■驚異の生命力・古株更新



左は原生林の中にある「八本杉」で、根元に古株があり、着生したタテヤマスギが8本の伏条幹となって巨大化していく典型的な例である。元は一本のスギである。これは古株が小さかったため根上り状になった。古株が大きければ、上部に着生したタテヤマスギの根は古株を覆うように成長し、やがて主幹のように変身する様は信じられない驚きの光景である。

■桶の材料にした盗木跡



左は、華厳杉にある「剥ぎ取り跡」である。1750～1880年の江戸時代から明治期に付けられたもので、加賀藩の取締りの目をくぐって必要な部分を剥ぎ取ったもの。タテヤマスギの巨木の8割に付けられ、生育の障害になっている。タテヤマスギは腐りにくいので、桶の材料に使ったといわれている。



写真 T-026 るしやなすぎ
盧舎那杉

美女平でも最大級に近いタテヤマスギだ。主幹を何本もの幹が取囲む異様な樹形は盧舎那仏を彷彿とさせる荘厳な雰囲気がある。原生林の中にある。

このスギの成立ちは非常に興味深い。古株更新の樹形であるが、まず中央部にある主幹が古株更新によって形成され、その後主幹から出た伏条枝が、日当たりがよい条件下で枯れずに、次々と幹へと成長していった希有なものである。推定樹齢は約500年。



写真 T-027

たてやまじょおう
立山女王

美女平で最も大きな単幹スギ。古株更新の跡が見られない、伐採を免れた貴重な一本で、優雅で気品があることから命名された。原生林の中にある。美女平の標高 1,070m にあった樹齢 300 年の一本杉が伐採され、その年輪調査で平均年輪幅が 2.96^{mm}であった。この事から立山女王の樹齢は約 550 年と推察される。



写真 T-028

せんどうすぎ

仙洞杉

アルペンルート沿いに立つ。観光バスが必ず樹下に停まって説明する。最も多くの人に見られたタテヤマスギ。一本杉に見えるが、古株更新の樹形である。中心に古株が今も残り、上部に着生したスギから伸びて幹になったものと一体に見える。

写真 T-029

たてやまだいおう

立山大王

美女平の原生林の中にあり、美女平で最大幹を誇る事から命名された。古株更新による分岐幹の迫力は尋常ではない。剥ぎ取り跡もあり、背後は古株の朽ちた残骸が散らばっている。





写真 T-030
らいじんすぎ
雷神杉

美女平の原生林深部にある。中心に背の高い古株が見える。古株の上部に着生したタテヤマスギが巨大化した後、古株の上部が朽ち、3m程で2分岐するような樹形に見える。背後の主幹は繋がっている。(下写真)

このような樹形のタテヤマスギには有名な仙洞杉がある。

根元に堅い古株のコブが少し突出していることから、内部に大きな古株のコブがあり、根元が膨らむ原因になっている。

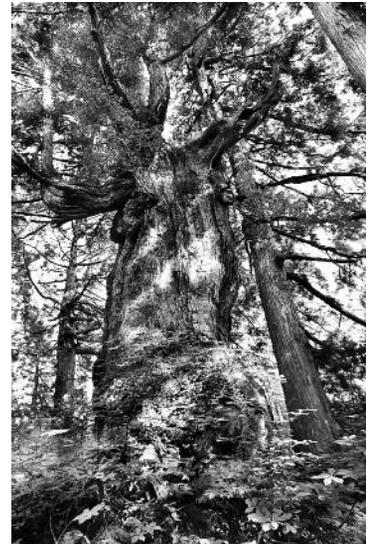


写真 T-031▶
じこくてんすぎ
持国天杉

美女平の原生林の中に立つ。背後に古株があり、半分程朽ちかけている。典型的な古株更新の樹形で、分岐部に着生したスギの根が主幹のように成長したもの。傍には珍しいコブ杉もある。



持国天杉の背後中心に古株が残っている。



写真 T-032

きつしよてんすぎ

吉祥天杉

幹は細いが、それでも古株更新による樹形。

二股分岐点に着生して成長した。信じられない成長過程を経ている。美女平には同じような樹形が他にも二本ある。(天蓋杉・持国天杉)

写真 T-033▶

じょうどすぎ

浄土杉

美女平の原生林の中にある。8mで3分岐、主幹にある明瞭な斧の痕跡は巨大な剥ぎ取り跡で、幅1m長さ4mもある。これは古株に付けられたもので、その後、古株の先端に着生したタテヤマスギが、古株更新によって古株の幹を覆っていったと考えられる。下写真は背後で、中央に古株が残っていて、周囲を新しい根が覆っていく様子が判る貴重なもの。

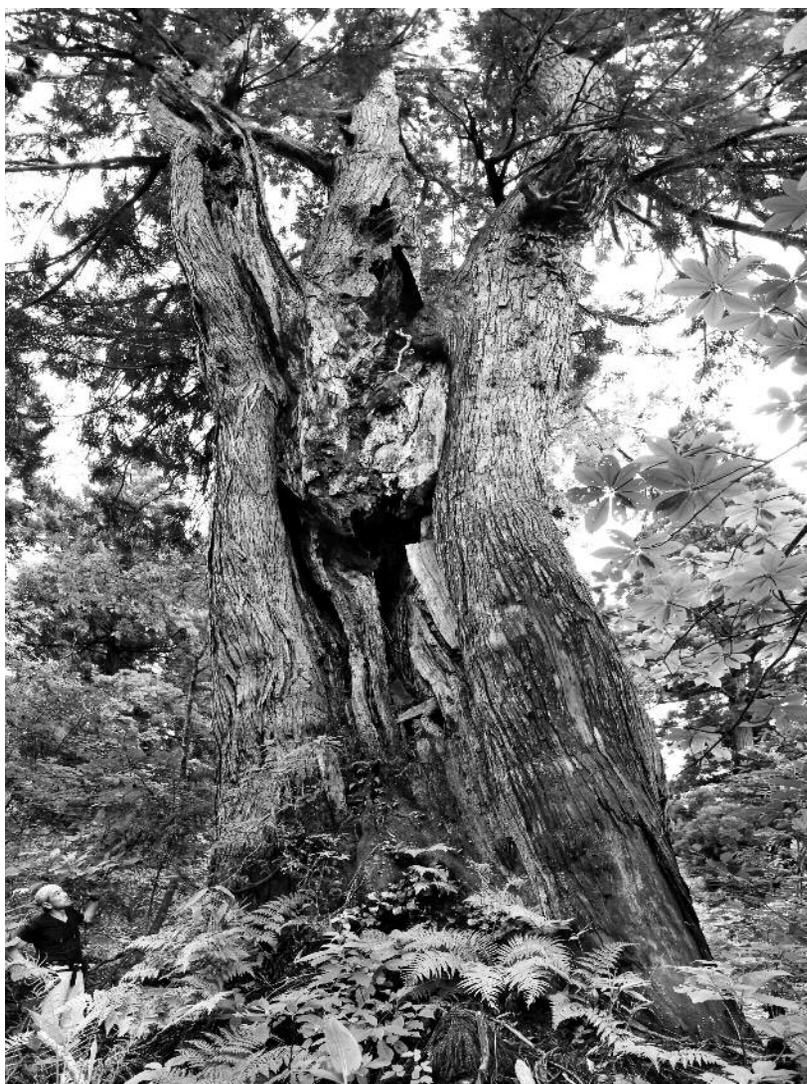
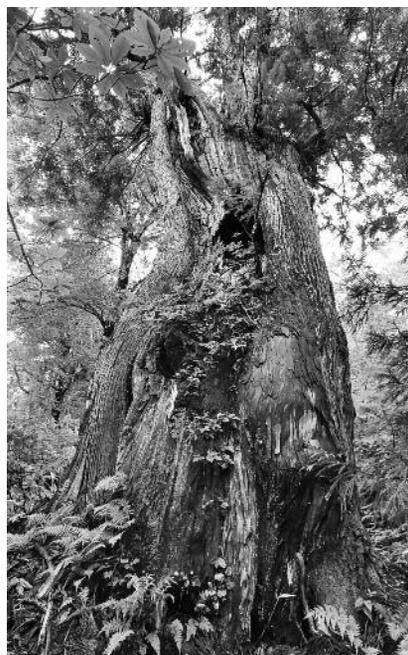




写真 T-010
ふうじんすぎ
風神杉

美女平の原生林の中にある。3mで2分岐、主幹は6mで2分岐する。根元に巨大な剥ぎ取り跡がある。斧の跡は年輪が明瞭に確認できる。古株が一部残り、古株更新による樹形。



写真 T-035
ほうおうすぎ
鳳凰杉

美女平の原生林にある。地上3~5mで5分岐する樹形。主幹中心に空洞があり、古株の痕跡が残る。堂々とした樹形は鳳凰のごとし。



▲写真 T-036

あしゅらすぎ
阿修羅杉

美女平の原生林の中に立つ。根元で2分岐する樹形で、双方の主幹に剥ぎ取り跡がある。別々の個体のように、右の幹の先端が左幹の上に乗りにかかる。阿修羅像の雰囲気似る。

写真 T-037

じゅういちめんかんのんすぎ
十一面観音杉

アルペンルート沿いに立ち、ポスターにもなった杉。珍しい単幹樹で、上部に太い枝が十一本出ている樹形。古株更新の痕跡は見られないが剥ぎ取り跡が三ヶ所もあり、奇跡的に伐採から逃れた貴重な一本だ。推定樹齢は500年。



▲写真 T-038

ふろうじゅ
不老樹

美女平の遊歩道沿いに立つ。4mで4分岐する合体木に見えるが、根元に古株の痕跡があり、低い位置の古株に着生した古株更新による分岐杉。二本の幹がお互いに癒着して窓が明るく洞杉のような珍しい現象も見られる(下写真)。



◀写真 T-039

こんごうすぎ
金剛杉

美女平の原生林の中に立つ。古株更新の樹形で、古株はほとんど朽ちかけ、上部にタテヤマスギ、側面にミズメ(主幹の中央に太い根が見える)が着生して成長している。背後を見ると古株の跡が大きな空洞で、実に激しい樹形だ。



▲写真 T-040

ぼさつすぎ
菩薩杉

原生林の中に立ち、背後に剥ぎ取り跡がある。端正な姿をしているが、これも古株更新による樹形である。

写真 T-041▶

かえんすぎ
火炎杉

遊歩道沿いにあり、古株更新。古株はほとんど朽ちて、残骸がかすかに残る。着生したタテヤマスギは根が極端に発達し、主幹を形成したが、上部の幹を見ても樹齢はたっていない。いかに根の発達が早かったかが判る貴重な一本だ。



写真 T-042▶
ふどうすぎ
不動杉

美女平の原生林の中に立つ。古株更新の樹形で、背後には剥ぎ取り跡もある。日当たりがよく、先端の枝がよく伸び、枝張りは40mに及ぶ。日当りの悪い原生林ではあまり見られない樹形だ。



◀写真 T-043
たいしゃくてんすぎ
帝釈天杉

美女平の原生林の中に立つ。上部で2分岐する樹形だが、分岐部に古株の先端があり、ここに着生したスギが生長したもの。



写真 T-044▶
だいにちすぎ
大日杉

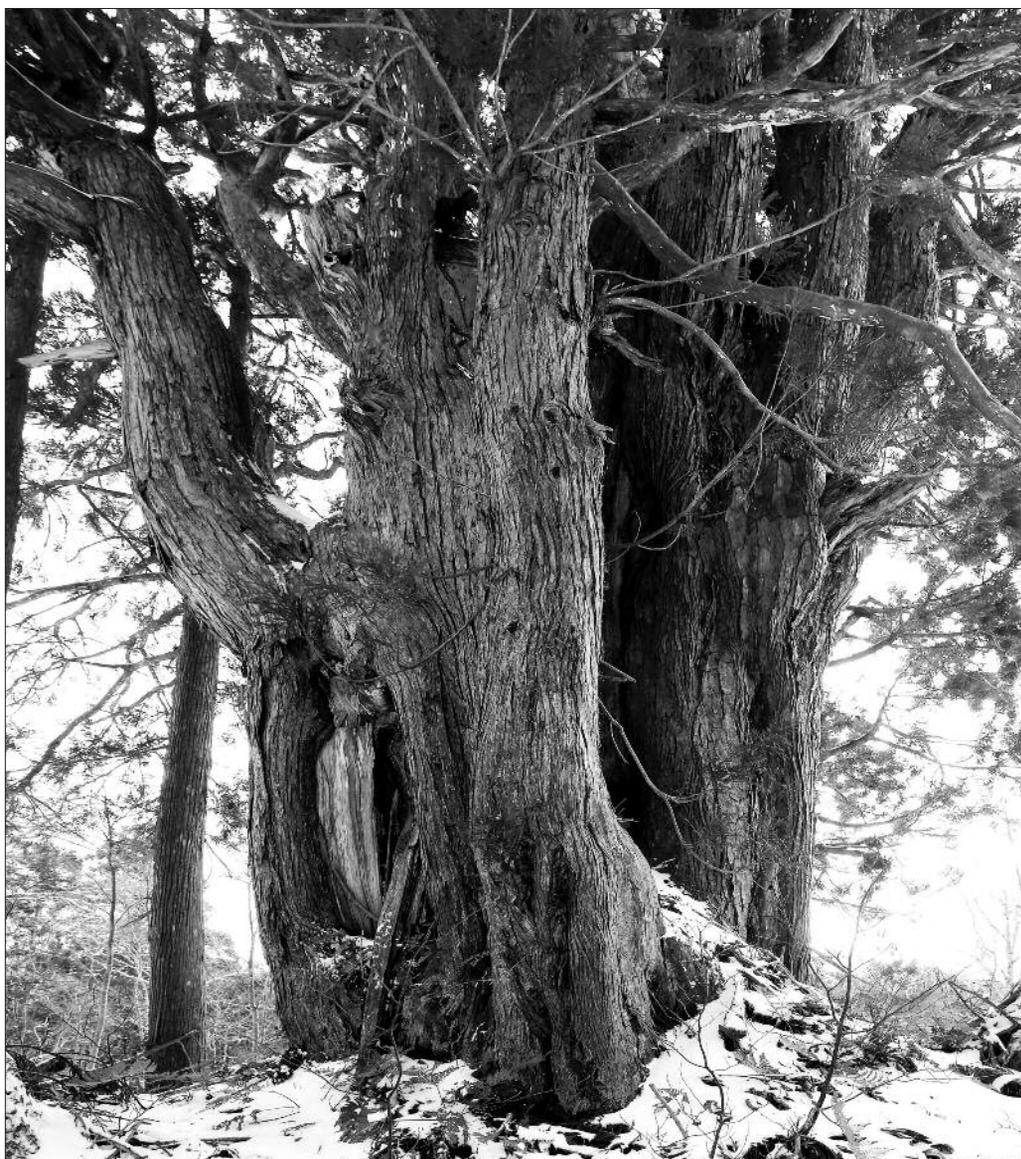
美女平の遊歩道から獣道を少し入った所に立つ。古株更新で、低い位置での実生伏条幹が何本も立上がる樹形。



▲写真 T-045

せんじゆすぎ
千手杉

美女平の原生林の中に立つ。千手観音のように、分岐幹が異様に出ている。



◀写真 T-046

がっこうぼさつすぎ
月光菩薩杉

美女平の原生林の中に立つ。根元近くで二分岐するが、どちらの幹にも剥ぎ取り跡がある。

(左幹中心に長さ1m程の大きな剥ぎ取り跡が見え、現在はその跡を修復するように成長している。生命力の旺盛さに脱帽)

写真 T-047▶

みょうおうすぎ
明王杉

美女平の原生林の中に立つ。見事な一本杉であるが、主幹に巨大な剥ぎ取り跡があり、実に無惨。



▼写真 T-048

にょらいすぎ
如来杉

美女平の原生林の中に立つ。根元で一本杉3本と融合している。主幹は古株更新で、分岐幹は自然破損により再び発芽し、奇怪な樹形になった。

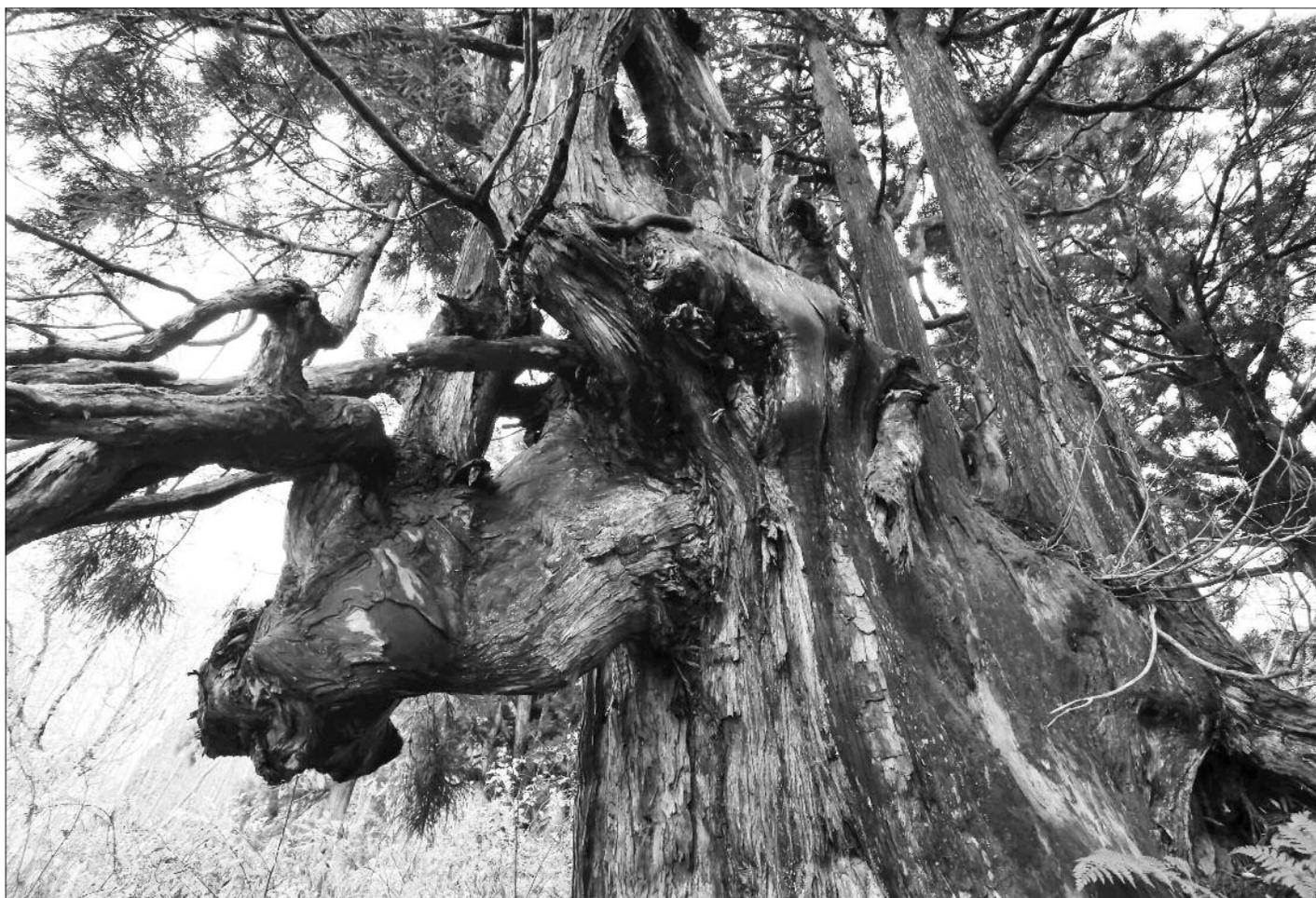
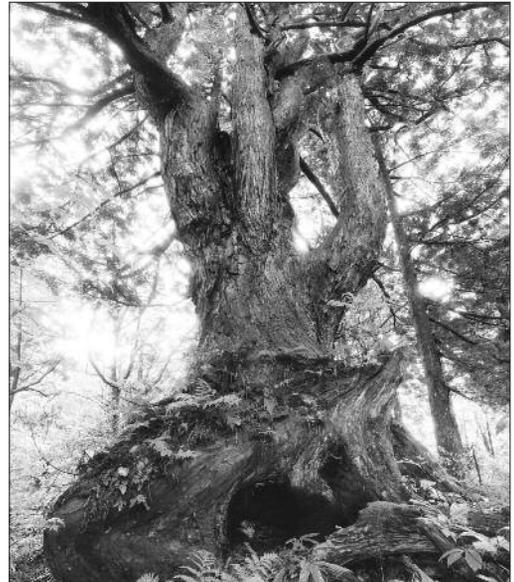




写真 T-049

あみだすぎ
阿弥陀杉

美女平の原生林の中に立つ。左は東側からの樹形で、古株更新の痕跡が見える。下は西側から見た樹形。根元に空洞化した古株があり、二本の古株更新の合体木のようなのだ。



◀写真 T-050

ごんげんすぎ
権現杉

美女平の原生林の中に立つ。見る方向によって樹形が大きく変わる。背後根元(下写真)に大きな空洞。主幹の西側(左写真)はほとんど古株で形成され、二代目はまだ樹齡が若い事が判る。タテヤマスギの成育過程を物語る貴重な一本。





写真 T-050
きしぼじんすぎ
鬼子母神杉

美女平の原生林の中、崖の際に立つ。背後に伏条幹が立上がり(下写真)、実際は株立ちになっている。剥ぎ取り跡はほとんど見えなくらいに修復されている。

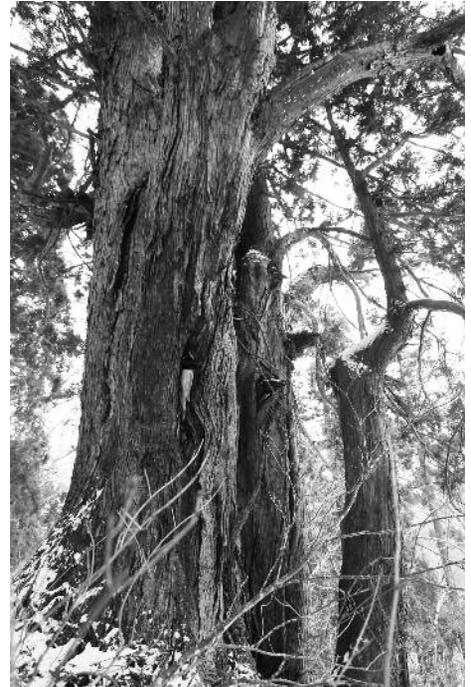


写真 T-052
えんめいすぎ
延命杉

美女平の原生林の中に立つ。株立ちのタテヤマスギとしては最大級。前景(下写真)は二叉杉。背後(左写真)は、中央に古株があり、古株に着生して伏条幹を多数出す杉(写真右側)と二叉杉(写真左側)の3者が合体している。このように、美女平では、様々な形態の古株更新が見られる。



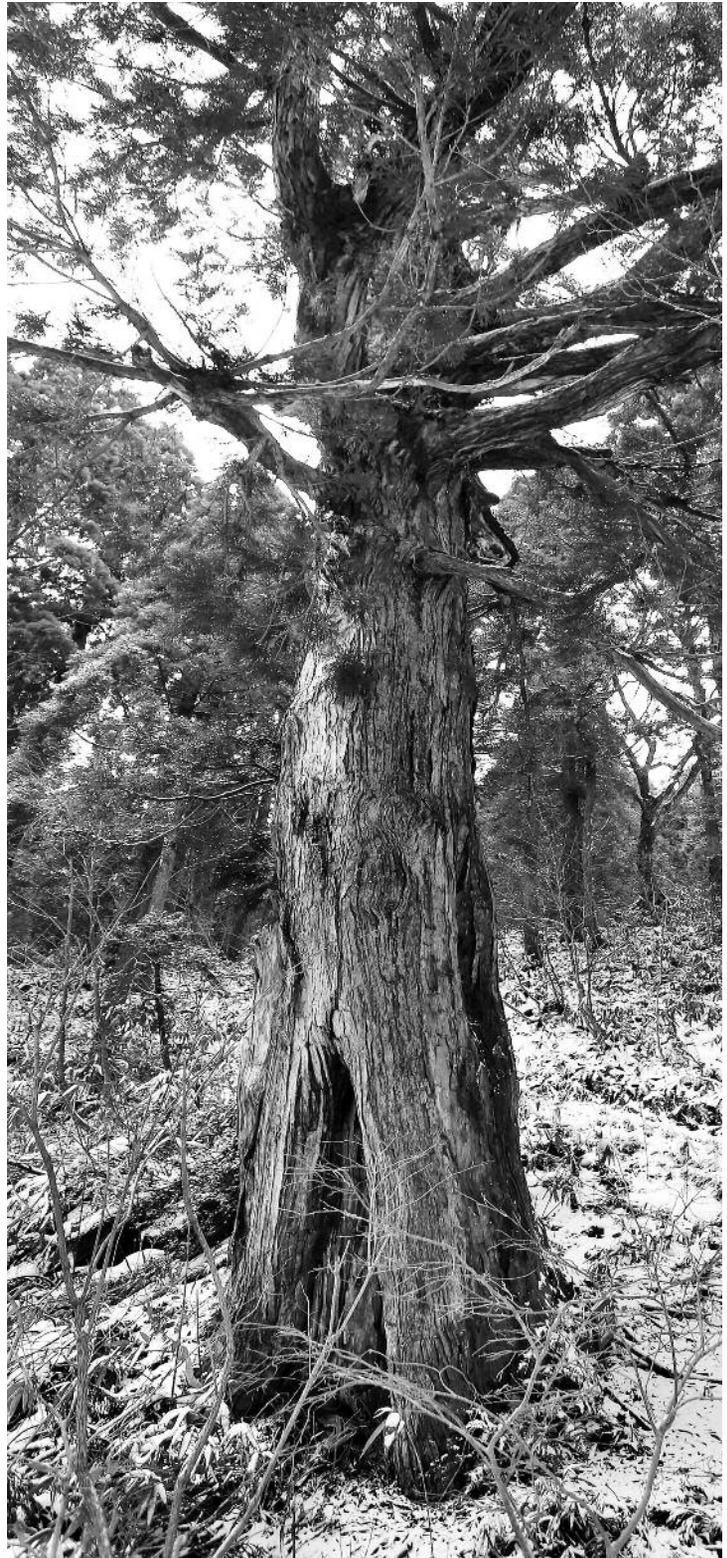


◀写真 T-053
こんびらすぎ
金比羅杉

美女平の原生林の中にある。3mで巨大な枝が出るが、枯れているようだ。上部8mで多数に分岐し、背後に剥ぎ取り跡と、根元近くに深さ50㍉程の試し切りの跡が明瞭に残されている。その理由は定かでない。

▼写真 T-055
おんば杉

美女平の遊歩道沿いに立つ。奇麗な一本杉に見えるが、内部に古株の剥ぎ取り跡が見える。



▲写真 T-054
ぼんてんすぎ
梵天杉

美女平の原生林の中に立つ。古株更新で、実生伏条幹が数本立上がり、古株を完全に根が覆っている。屋久島の縄文杉も同じ成立過程と考えられる。主幹の見事な凹凸は、古株を覆う根によって形成される事を物語るよきサンプルだろう。